

アーキテチャー入門 (4119342)

アーキテチャーはシステムの骨格の静的・動的なモデルです。構想・計画段階で作成し、アプリケーションと基盤の全般の構築・運用の基礎とします。複雑度の増す現在のシステムにおいて、その重要性は増えこそすれ減ることはありません。本セミナーでは企業システムのアーキテチャーを作る方法のエッセンスを学びます。

開催日時	2019年12月20日(金) 10:00-17:00
カテゴリ	IS導入(構築)・IS保守 専門スキル
講師	天羽正道 氏 (日本アイ・ビー・エム株式会社 シニア契約社員(元エグゼクティブアーキテクト)) チーフアーキテクトとして様々な環境でのビジネスアプリケーション開発をリード
参加費	J U A S 会員/ITC : 33,000円 一般 : 42,000円 (1名様あたり 消費税込み、テキスト込み) 【受講権利枚数1枚】
会場	一般社団法人日本情報システム・ユーザー協会 (ユニゾ堀留町二丁目ビル2階)
対象	◆対象 : ・プロジェクトの構想、計画においてシステムの全体像を明確にする仕事に携わる方 ・上流工程～下流工程にてアーキテクトとしての仕事の一部～全般に携わる方 ・アーキテチャーに関心のある方 ◆受講前提条件 : ・アプリケーションの設計・開発の経験3年程度 ・もしくはインフラの設計・導入の経験3年程度 初級
開催形式	講義、グループ演習
定員	24名
取得ポイント	※ITC実践力ポイント対象のセミナーです。(2時間1ポイント)
ITCA認定番号	ITCC-CPJU9479
ITCA認定時間	6

主な内容

<主な内容>

- ・アーキテチャーの定義と重要性
- ・アーキテチャー・モデルの作り方
- ・アーキテチャー・モデルを作るワークショップ
- ・クラウド等の最近のアーキテチャーのトピック

<詳細内容>

1 アーキテチャーの定義と重要性

アーキテチャーとは何か、アーキテチャーの位置付け、必要性や価値を共有する

- ・アーキテチャーは静的・動的なシステムの構造のモデル
- ・優れたシステムを作り、運用し、拡張するための基礎
- ・要求の分析、実現性の確認、構築単位の識別、インターフェースの認識に必要
- ・見積もり、ロードマップ、基盤選定条件などに利用
- ・作成のタイミングは概ねプロジェクトの計画時
- ・アーキテチャーの構成
- ・アーキテチャー作成の流れ(一枚物)
- ・アーキテチャーの種類

2 アーキテチャー・モデルを作る際のポイント

- ・関心分離
- ・凝集度、結合度
- ・パレートの法則
- ・デンジョンの可視化、共有
- ・ファーストカットモデルと洗練のスパイラル

- 3 アーキテクチャー要求の捉え方
 - ・コンテキスト図
 - ・ユースケース・モデル
 - ・非機能要件（性能、運用、障害回復、エラー処理など）
- 4 機能モデルの作り方
 - ・ユースケース単位にシーケンス図を描きながら機能構造図を洗練する
 - ・技術要素を追加し実現の方式を表す
- 5 非機能モデルの作り方
 - ・非機能要件とは
 - ・非機能要件を実現するための機能要素を追加する
 - ・非機能要件を実現するために機器、ソフト、データの配置を表す
- 6 アーキテクチャーの検証

要求を満たすか、実現可能か、理由付けが明確か、などの検証について共有
- 7 アーキテクチャー・モデルを作るワークショップ

簡単なアーキテクチャーモデルを作って理解を深める
- 8 アーキテクチャーのトピック

最近のキーワードとアーキテクチャーとの関係を共有する

 - ・クラウド
 - ・API
 - ・マイクロサービス